

巻頭言

神崎智子

九州大学理事

男女共同参画推進室 室長



『ポリモルフィア』は、平成28年（2016年）3月に創刊され、今年、第9号の発行となりました。

本誌は、九州大学男女共同参画推進室の活動報告書から発展したもので、九州大学の男女共同参画の取組みのほか、ダイバーシティや女性のキャリア形成などに関する論考を紹介し、男女共同参画における現代的課題を読者の皆さんと共有することを目的としています。

また、学外からも投稿を受け付けており、多様な研究者の学術的な発表の場となることも目指しています。

「ポリモルフィア」は、「多様性（ダイバーシティ）」を意味するギリシャ語ですが、多様な人たちで構成されるという「ダイバーシティ」だけでは不十分で、多様な構成員が能力を発揮し活躍できるようにするという「インクルージョン」が不可欠とされます。これは、男女共同参画社会基本法の「男女共同参画」と同じで、女性がそこにいるという「参加」ではなく、主体的に意思決定に加わる「参画」を重視したのが「男女共同参画」です。

九州大学は、「男女共同参画」を大学運営の重要な柱としています。本学では、ダイバーシティ&インクルージョンに加え、個々のニーズにあわせた機会やリソースへの公平なアクセスを保障する（エクイティ）ことで、誰もが誇りを持ち、自分の可能性に挑戦できるようなキャンパスづくりをしようと、「九州大学ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン推進」宣言をしています。

今号の主な内容をご紹介しますと、「特集」として、令和3年（2021年）に文部科学省ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）事業に採択され、2年間にわたり九州大学と東京工業大学が調査してきた「女性活躍指標に基づく女性研究者活躍促進に関する国際調査」の報告を収録しました。データに基づく客観的な評価指標の提案とその有効性の検証、海外研究機関のインタビュー調査に基づく提言のまとめを掲載しています。

また、海外の男女共同参画事情を概観する「世界の窓から」のコーナーでは、「女性の理系進路の選択」を取り上げました。わが国では、「リケジョ」という言葉が生まれたのが2010年ごろ。女性の理系分

野への進出促進は、長きにわたる課題となっています。研究者が共同で、比較的理系進学比率の高い中国、シンガポールと、比率の低いドイツ、アメリカの事例をインタビュー調査し、制度分析ではわかりえない実態を把握しました。

そして、特別コーナーとして、九州大学薬学部・薬学研究科出身で、女性研究者支援に尽力され、昨年7月に逝去された大坪久子さんを追悼する記事を掲載しました。大坪さんは、男女共同参画学協会連絡会をはじめ、様々な活動によって女性研究者の活躍を支援しました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

さて、1985年の男女雇用機会均等法制定に尽力し「均等法の母」と呼ばれた赤松良子さんが、今年2月に逝去されました。均等法成立によって日本は、「世界女性の憲法」と言われる「女子差別撤廃条約」の批准を行うことができ、法の成立は我が国の法の枠組を転換させるパラダイム・チェンジでした。

赤松さんは「男女平等のための長い列に加わる」という言葉を遺しています。赤松さんは、均等法制定の労使調整で苦労したとき、自分の前に多くの先輩の姿が見え、後ろにはこの列に加わる多くの後輩たちがいるのを感じたと言います。

男女共同参画の歴史を振り返ると、多くの先輩女性たちが切り開いた歩みの中に今の私たちがいます。男女共同参画社会基本法第2条に「男女共同参画社会の形成」が定義されていますが、「の形成」の言葉には、男女共同参画社会は、その形成の営みを、いつまでもいつまでも続けなければならないとの思いが込められています。

誰もが誇りを持ち、自分の可能性に挑戦できるような社会づくりの列に多くの人に加わり、次の世代につないでいけるよう、本誌の情報が役立つことを願っています。